

浜の活力再生プラン  
(第2期)

## 1 地域水産業再生委員会 ID: 125002

組織名	隠岐海士地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 大江和彦 (海士町長)

再生委員会の構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海士町漁業協同組合</li> <li>・海士町</li> <li>・海士いわがき生産(株)</li> </ul>
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)ふるさと海士</li> <li>・島根県隠岐支庁水産局</li> <li>・島根県漁業担い手確保・育成支援協議会</li> <li>・海士町離島交付金運営協議会</li> </ul>

※再生委員会の規約及び推進体制の分かる資料を添付すること

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<p><b>【地域の範囲】</b> 島根県隠岐海士地区</p> <p><b>【対象漁業の種類・経営体数】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">一本釣</td> <td style="width: 15%;">151 経営体</td> <td style="width: 30%;">採介藻</td> <td style="width: 25%;">49 経営体</td> </tr> <tr> <td>刺網</td> <td>17 経営体</td> <td>養殖</td> <td>10 経営体</td> </tr> <tr> <td>延縄</td> <td>10 経営体</td> <td>定置網</td> <td>2 経営体</td> </tr> <tr> <td>桁曳網</td> <td>5 経営体</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td style="text-align: right;"><u>合計 244 経営体</u></td> </tr> </table> <p><b>【漁業者数】</b> 363名 (正組合員 67名、准組合員 296名) ※海士町漁業協同組合業務報告書より (平成31年3月31日現在)</p>	一本釣	151 経営体	採介藻	49 経営体	刺網	17 経営体	養殖	10 経営体	延縄	10 経営体	定置網	2 経営体	桁曳網	5 経営体						<u>合計 244 経営体</u>
一本釣	151 経営体	採介藻	49 経営体																		
刺網	17 経営体	養殖	10 経営体																		
延縄	10 経営体	定置網	2 経営体																		
桁曳網	5 経営体																				
			<u>合計 244 経営体</u>																		

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること

## 2 地域の現状

### (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

#### 【地区の概要】

島根県隠岐海士地区は島根半島の沖合 60km の日本海に位置する一島一町の離島（中之島・海士町）を対象とし、周囲は対馬暖流と大陸からの冷水塊が交差する日本海でも有数の好漁場であり、その豊かな資源のもとに水産業が営まれてきた。古くは藤原京や平安京の時代、朝廷の御食國（みけつくに）として干しワカメ、アワビを献上し、また江戸から明治にかけては干しイカを長崎俵ものとして中国へ輸出してきた歴史がある。

#### 【隠岐海士地区における漁業生産の現状】

地区の漁協は、平成 8 年に地区内の菱浦、豊田、知々井、御波、崎の 5 漁協が経営不振から合併して海士町漁業協同組合として一本化した。その前年に崎漁協が行っていた大型定置網は経営不振により地元の建設業者へ譲渡された経過がある。

平成 18 年に島根県内沿海の 20 漁協が合併して J F しまねとなったが、海士町漁協は独自性を失うことを危惧してこれに参加せず、県内沿海漁協では唯一独立した単独漁協となっている。地区の漁業は定置網とイカ釣り、その他漁業に大別される。近年の年間漁獲量は平成 19 年の総漁獲量 909 トンに対して平成 30 年は 339 トンと 3 分の 1 まで減少し、水揚額は 4 分の 3 に減少している。この減少傾向は平成 8 年の合併以来続いている。

また、漁業の担い手については平成 8 年の合併時に 272 名いた正組合員が平成 31 年 3 月末には 4 分の 1 の当たる 67 名まで減少した。平均年齢は 72 才で、60 才以上が 88.2% を占め超高齢化している。これは日本全国の傾向であり、水産業に限らず多くの一次産業において同じような傾向になっているが、このままでは海士町漁協の存続や、海士町の漁師そのものの存続も危ぶまれる。（別紙 1 参照）

そのような状況を打開するため、平成 14 年に地元漁業者 2 名と移住してきた漁業者 1 名の 3 名が養殖いわがきの生産・販売を開始し、また、平成 17 年には海士町、海士町漁協及び民間企業の共同出資により第三セクター(株)ふるさと海士を立ち上げ、同社が細胞を壊さない冷凍装置（CAS システム）を使って海士地区の漁業者から仕入れた海産物等を使用して水産加工品を製造販売し売上を伸ばしてきた。

#### 海士地区の漁獲量と漁獲高の推移

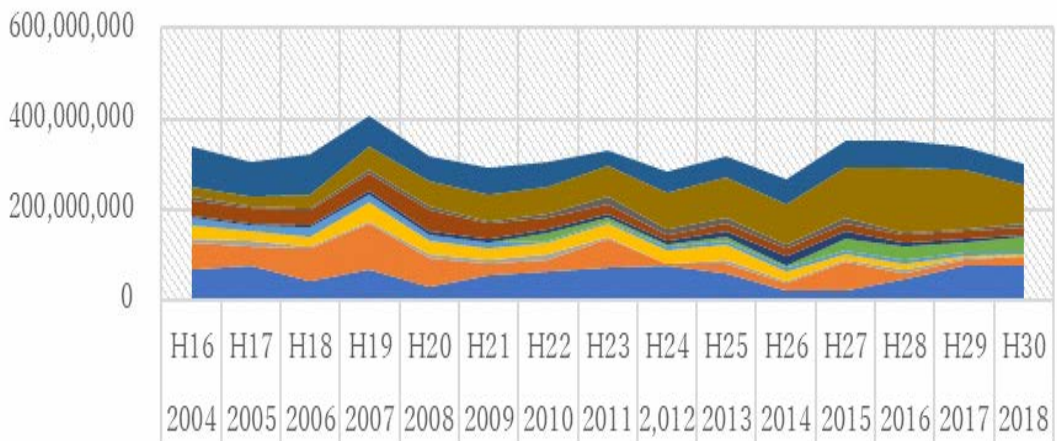
### 年間漁獲量 (トン)



### 年間水揚金額 (百万円)



### 主要魚種別水揚額 (円)



- シロイカ      ■ スルメ      ■ ヤリイカ      ■ アジ
- タイ          ■ ヨコワ      ■ キジハタ・カサゴ      ■ ウニ・アサギ・サエ
- ナマコ      ■ 養殖岩ガキ      ■ その他

(2) その他の関連する現状等

**第三セクター（株）ふるさと海士における現状、課題、今後の方針**

**【仕入・売上・在庫の現状】**

過去3年の売上はシロイカ（ケンサキイカ）が約45%、イワガキが25%、シマメ（スルメイカ）が20%であり、この3種で全体の90%を占めている。（別紙2参照）

・シロイカ（ケンサキイカ）

シロイカは在庫があれば売れていく。平成26年、平成27年は不漁のため仕入が大幅に減少したが、平成29年は久しぶりに50tと大量に仕入れた。

このように年変動はあるもののシロイカは常に主力商品であり、市場出荷と異なり大漁であっても価格が下がることなく定額で引き取るため、漁師の所得向上に大いに貢献する。したがって獲れるときに大量に仕入れる必要があるために冷凍保管庫の増築を進めている。

・イワガキ

イワガキは平成27年から20万個前後を仕入れ、平成26年から平成28年は4千万円前後の売上を維持している。平成30年に町営のイワガキ種苗生産施設が整備されたことで他産地の増産に左右されることがなくなり種苗の安定供給が実現したため、町で進めるイワガキ増産と共に仕入・販売も徐々に増やしていく。

・シマメ（スルメイカ、マイカ）

シマメは、平成27年から全国的な不漁続きとなっているが、（株）ふるさと海士においては毎年10トン程度の仕入は確保できており、その凍結商品の売上は、平成27年以降は平成26年の倍以上の水準を維持している。

平成29年の販売先は国内の大手外食チェーンを主体に個人店舗を含め約600社。海外へは主に商社を通じてシロイカ、イワガキを560万円分ほど輸出した。

**【課題】**

・主力3品のうちシロイカ、シマメは天然資源に依存し、近年は漁獲量が不安定なことから仕入も不安定である。

シロイカは平成29年は50トンと過去最高の仕入量を記録したが平成26年から平成28年が不漁が続くなど不安定である。

シマメは平成28年から不漁のままの状況であり、地元産の天然資源をCAS凍結商品の原料としているため仕入が不安定になる。

・離島のハンディによる輸送と保管の問題

（株）ふるさと海士が運営する海士町CAS凍結センターは海士町の漁師から魚介類（原料）を買い取ることが前提であるが、海士町は離島のため本土の民間冷凍保管庫への輸送ト

ラックが2週間に一度しか来ないため、海士町の規模の小さい冷凍保管庫では豊漁時に大量に仕入れることができない。

### 3 活性化の取組方針

#### (1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

第1期計画においては、海士町地域の全漁業種類（一本釣り、刺し網、延べ縄、採貝類、養殖、定置網）を対象とし様々な取り組みを行うこととし、年間水揚額とイワガキの出荷個数から所得を算出して数値目標とした。

イワガキについては、海士町で独自に立ち上げたブランド「いわがき春香」を、町を挙げて養殖推進の取組を行ったことにより平成28年に46万個出荷と過去最高数量の出荷を達成し、翌年も約45万個出荷した。種苗購入数も100万個相当分を購入しており生産・出荷量を増やすことができた。課題としては、種苗供給を一手に受けてきた県栽培センターへの需要が増えてきたことにより、種苗供給が不安定になり、数が不足してきたため、海士町独自の種苗生産施設を整備し、早急に種苗の安定供給体制を構築する必要があること、また、さらなる増産に向けて作業保管施設等の整備が必要なが挙げられる。

海士町で最も水揚量が大きかった定置網は、シマメやシロイカなどのイカ類が漁獲の主体であったが、イカ類の定置網漁場への来遊量の減少等により平成19年から下降を続け、平成30年には平成19年の8分の1の漁獲量まで減少した（別紙3参照）。

シマメについては、近隣国による日本海大和確における乱獲の影響も危惧されている。

そのため、漁獲効率の向上や魚価向上の取り組みを進める必要がある。

課題としては、運動場の交換用の網がないため引き上げて網洗浄と修理をすればらく漁ができなくなること、さらに隠岐海士地区の漁獲物は離島のため1日遅れて本土の市場にあがるため魚価が低くなり、出荷経費（箱代、氷代、手数料、陸海輸送費等）を差し引くと利益がほとんどでなくなることが挙げられる。

採介藻においては、昔、盛んにおこなわれていたが漁業者の高齢化にともない衰退していった天然及び養殖ワカメの塩蔵・板加工を、中堅年代の漁業者がグループで取り組み始めて、一定の収入が得られるようになった。今後はより効率的な生産体制を確立する必要がある。共同で取組み加工作業を効率化し一人当たりの取扱量を増やすための器機などの導入も検討している。

販路については、現在、本土の加工会社へのお荷が主であるが、大型スーパー等への直接出荷等の新たな販路を開拓が必要である。

新しい漁法としては、対馬を手本としてクエ縄を導入し、これまで漁獲されなかった30kgクラスのクエを釣り上げるなど、今までにない成果をあげることができた。

出荷は京都の市場と連携して生け簀を活用しながら活メで出荷している。

一本釣りでは、ヨコワ（クロマグロ）釣りにおいて、新しい漁労機器としてソナーを導入することによりヨコワの水揚量と額が増加した。しかしながらヨコワは、国際的な資源管理

の下厳しい漁獲制限が設定されており、先行きが不安視されている。

いうまでもなく漁業は自然が相手であるため、年々で漁獲量・漁獲額、休みに波があり不安定な職業として若い世代に感じられているかもしれず、新規就業につながっていない。

そのような中でも、個々が競い合うのではなく共同企業体方式によりみんなで儲ける手法を取り入れることで小さな町でも大きな成果を上げている猿払村のような事例もあるので、前期プランの取組は継続するとともに、従来どおりの手法にとらわれず知恵をかき集めて創意工夫しながら海士町の漁業の再生を進めていく必要がある。

## (2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

隠岐海士地区の水産業は古くから沿岸漁業と養殖業のみで営まれてきた。

しかしながら近年の水産業を取り巻く環境は非常に厳しく、漁獲量と水揚額の減少、漁業者の高齢化や若手の担い手不足、燃料費や資材費の上昇、新造船投資の低迷等多くの問題を抱えている。このような問題を解決し、地区内の水産業の活性化を図るために、以下のとおりの基本方針を定め取り組んでいく。

### 【貝類（イワガキ）養殖の生産基盤強化と桁引き支援】

#### ① 種苗生産

- ・安定した種苗生産・供給
- ・餌料培養室の増築整備
- ・種苗生産の担い手育成
- ・種苗生産コストの抑制研究

#### ② 養殖管理

- ・養殖筏の整備及び整備に伴う稚ナマコ増殖
- ・新規作業保管施設の整備
- ・作業効率化及び人手不足解消等のための機器開発
- ・新規生産者等の確保と育成の取組

#### ③ 営業販売

- ・国内への販売促進活動
- ・海外輸出の促進

### 【定置網漁業の再構築】

- ・他産地の定置網漁業の優良事例の学習及び導入検討
- ・水産経営の有識者等を招いての経営改善のための勉強会開催
- ・交換用網の導入検討

- ・低価格魚の干物等への加工検討

**【採介藻への支援】**

- ・ワカメの作業効率化機器などの導入検討
- ・ワカメの新たな販路開拓の検討
- ・ワカメの自前人工種苗生産の検証
- ・アワビの稚貝放流と追跡調査
- ・ヒオウギガイの自前による天然採苗検証

**【延縄と一本釣とイカ釣り】**

- ・クエ縄の生け簀の充実
- ・活〆クエの出荷先市場との連携強化
- ・研修後の独立支援のための漁業研修船貸出

**【CAS凍結加工品】**

- ・海士町の食材と海士町の食文化をヒントにした商品開発
- ・国内外への販路拡大

**【全ての漁業】**

- ・新規漁業就業者の確保・育成
- ・土産物の開発
- ・海士町給食センターと連携
- ・海岸清掃（漂着ごみ含）
- ・漁港・港湾施設整備と維持管理
- ・離島のハンディ軽減のための海上輸送費支援

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁業法をはじめ県漁業調整規則、漁業調整委員会指示等、関係法令を遵守し、資源の維持増大と漁業秩序の維持を図っている。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和1年度） 以下の取組により漁業所得を基準年対比で23%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>【貝類（イワガキ）養殖の生産基盤の強化と桁引き支援】</b></p> <p>① <u>種苗生産</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町営種苗生産施設（H30 整備）において安定的な種苗生産に取り組む。</li> <li>・現在、餌料の多くを外部購入に依存しているため自前で餌料生産（濃縮餌料含む）してコスト削減に取り組むための餌料培養室を整備する。</li> <li>・新規採用及び、経験者の中途採用を行い種苗生産の担い手を育てる。</li> </ul> <p>② <u>養殖管理</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷数量を増やすため新たな作業保管施設等を整備（設計）する。</li> <li>・自動磨き機等の作業効率化及び人手不足解消のための機器を開発する。</li> <li>・漁業就業者フェア等による新規生産者等の確保と育成に努める。</li> </ul> <p>③ <u>営業販売</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の取引先への営業と増産に伴う新規取引先の開拓に努める。</li> <li>・計画的増産の数量に応じて商社や、仲買等と連携した海外輸出を促進する。</li> </ul> <p><b>【定置網漁業の再構築】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他産地の定置網漁業の優良事例を学習し、良いところは積極的に取り入れていくことを検討していく。</li> <li>・定置網の運動場の交換用網がないため引き上げて網洗浄と修理をすればらく漁ができなくなることから、交換用の網を導入する方法を検討する。</li> <li>・近隣地区で大漁に獲れた魚の魚価が低くなるのは当然であるが、さらに隠岐海士地区の漁獲物は離島のため 1 日遅れて本土の市場にあがるため魚価が低くなり、出荷経費（箱代、氷代、手数料、陸海輸送費等）を差し引くと利益がほとんどでなくなることから、干物等に加工して出荷することで出荷経費を減少させることができないか検討する。</li> </ul> <p><b>【採介藻への支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中堅年代の漁業者グループが復活させた天然及び養殖ワカメの塩蔵・板加工作業を効率化し一人当たりの取扱量を増やすための機器などの導入を検討する。</li> <li>・現在は本土の加工会社への出荷が主であるが、大型スーパー等への直接出荷等の新たな販路を開拓する。</li> <li>・アワビ稚貝放流について、ダイバーによる丁寧な放流を実施するとともに、放流したアワビがどの程度確認できるか追跡調査を実施する。</li> <li>・ヒオウギガイの種苗は県外から購入しているが、コスト削減のため自前に</li> </ul>
---------------------	---



よる天然採苗ができないか検証する。

#### 【延 縄】

・クエ縄漁は数年前より対馬を手本としてはじめた。1尾数十キロのクエを漁獲し活〆で出荷してきた。その活〆の出荷調整用の生け簀を整備・充実していく。

・活〆クエの多くは関西の市場へ出荷しているが、出荷先の市場との連携を強化し、より鮮度の良い活〆や梱包時の見せ方について話し合い魚価の向上を図る。

#### 【一本釣とイカ釣り】

・魚価の良いシロイカ漁やヨコワ釣りを主とした漁業者を新規漁業就業者支援事業等により研修生として育成しても、独立時に多額の設備投資が必要であるためスムーズに独立しがたい。そこで行政が中古の漁業研修船を貸し出しスムーズな独立支援を実施する。

#### 【C A S凍結加工品】

・海士町の食材と海士町の食文化をヒントにした商品開発及び国内外への販路拡大を進める。

具体的には、海士町「島風便」のブランド名で販売しているC A S凍結商品について、食材（魚介類）だけでなく、それらを用いた海士町に伝わる郷土料理（総菜）をC A S凍結したものも商品化して販売するとともに、海士町の名前を全国にP Rしていく。

販路拡大については、国内は主力3品（シロイカ、イワガキ、シマメ）等の外食向け販売を一層強化する。国外は商社を介して中国を主体とする東アジア、中東、米国向けシロイカ、イワガキの販売促進に取り組む。

#### 【全ての漁業】

・漁業者の高齢化、及び担い手不足対策として新規漁業就業者支援事業等を活用する。

・海士町で獲れた魚介類を活用し付加価値をつけた缶詰・干物等の土産物の開発・販売に取り組む。

・海士町給食センターと連携して給食用の魚介類加工を実施する。

・漁師及び地区住民を交えた海岸清掃（漂着ごみ含）を実施する。

・漁民が安全安心な漁業経営を営むため町による漁港・港湾施設整備を実施し、施設の老朽化対策を行いつつ適正に維持管理をする。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離島のハンディ軽減のための海上輸送費支援を行う。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料急騰に備え漁業経営セーフティネット構築事業への加入を促進する。</li> <li>・ドックによる船底清掃や、減速航行、係留中の機関停止などにより燃費の向上を図る。</li> <li>・イワガキ養殖作業等の共同化や船舶・機器の共同利用化を促進する。</li> </ul>
活用する支援措置等	<p>浜の活力再生・成長促進交付金（国）、離島漁業再生支援交付金（国県）、漁業担い手確保・育成支援事業（国）、地方創生推進交付金（国）、離島流通効率化事業（国）、新農林水産振興がんばる地域応援総合事業（県）他</p>

2年目（令和2年度） 以下の取組により漁業所得を基準年対比で32%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p><b>【貝類（イワガキ）養殖の生産基盤の強化と桁引き支援】</b></p> <p>① <u>種苗生産</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町営種苗生産施設において安定的な種苗生産に取り組む。</li> <li>・H31年度で整備した餌料生産（濃縮餌料含む）施設で餌料を生産してコスト削減に取り組む。</li> <li>・新規採用及び、経験者の中途採用を行い種苗生産の担い手を育てる。</li> </ul> <p>② <u>養殖管理</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いわがき養殖区画に養殖筏を増設する。 養殖筏には5月頃多数の稚ナマコが着生する効果もある。</li> <li>・出荷数量を増やすために新たな作業保管施設等を整備（施工）する。</li> <li>・自動磨き機等の作業効率化及び人手不足解消のための機器を開発し稼働させる。</li> <li>・漁業就業者フェア等による新規生産者等の確保と育成に努める。</li> </ul> <p>③ <u>営業販売</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の取引先への営業と増産に伴う新規取引先の開拓に努める。</li> <li>・計画的な増産の数量に応じて商社や、仲買等と連携した海外輸出を促進する。</li> </ul> <p><b>【定置網漁業の再構築】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した他産地の良いところを海士町において導入できるか検討する。</li> </ul>
--------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産経営の有識者等を招いて経営改善のための勉強会を開催する。</li> <li>・交換用網（運動場）の導入について補助事業等の検討をする。</li> <li>・低価格魚の干物等への加工を検討する。</li> </ul> <p><b>【採介藻への支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天然及び養殖ワカメの塩蔵加工等の作業効率化機器などについて検討する。</li> <li>・新たな販路開拓の検討を行う。</li> <li>・養殖ワカメの自前人工種苗生産について検証する。</li> <li>・アワビのダイバーによる稚貝放流と放流アワビの追跡調査を行う。</li> <li>・稚貝を購入しているヒオウギガイの自前による天然採苗を検証する。</li> </ul> <p><b>【延 縄】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備した活〆用の出荷調整生け簀を活用し、出荷先の市場との連携を強化し、より鮮度の良い活〆や梱包時の見せ方について話し合い魚価の向上を図る。</li> </ul> <p><b>【一本釣とイカ釣り】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就業者への中古漁業研修船の貸し出しにより独立を支援する。</li> </ul> <p><b>【CAS凍結加工品】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海士町の食材と海士町の食文化をヒントにした商品開発及び国内外への販路拡大を進める。</li> </ul> <p><b>【全ての漁業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者の高齢化、及び担い手不足対策として新規漁業就業者支援事業等を活用する。</li> <li>・海士町で獲れた魚介類を活用した缶詰等の土産物を開発・販売に取り組む。</li> <li>・海士町給食センターと連携して給食用の魚介類加工を実施する。</li> <li>・漁師及び地区住民を交えた海岸清掃（漂着ごみ含）を実施する。</li> <li>・漁民が安全安心な漁業経営を営むため町による漁港・港湾施設整備を実施し、施設の老朽化対策を行いつつ適正に維持管理をする。</li> <li>・離島のハンディ軽減のための海上輸送費支援を行う。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料急騰に備え漁業経営セーフティネット構築事業への加入を促進する。</li> <li>・ドックによる船底清掃や、減速航行、係留中の機関停止などにより燃費の向上を図る。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イワガキ養殖作業等の共同化や船舶・機器の共同利用を促進する。</li> </ul>
活用する支援措置等	浜の活力再生・成長促進交付金（国）、離島漁業再生支援交付金（国県）、漁業担い手確保・育成支援事業（国）、地方創生推進交付金（国）、離島流通効率化事業（国）、新農林水産振興がんばる地域応援総合事業（県）他

3年目（令和3年度） 以下の取組により漁業所得を基準年対比で76%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p><b>【貝類（イワガキ）養殖の生産基盤の強化と桁引き支援】</b></p> <p>① <u>種苗生産</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町営種苗生産施設において安定的な種苗生産に取り組む。</li> <li>・餌料生産（濃縮餌料含む）施設で餌料を生産してコスト削減に取り組む。</li> <li>・採用者を指導育成し担い手として育てる。</li> </ul> <p>② <u>養殖管理</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備した筏で増産分のいわがきを養殖する。 養殖筏には5月頃多数の稚ナマコが着生する効果もある。</li> <li>・新たな作業保管施設を活用して出荷数量を増やす取り組みを行う。</li> <li>・作業効率化及び人手不足解消のため開発した機器を稼働する。</li> <li>・漁業就業者フェア等による新規生産者等の確保と育成に努める。</li> </ul> <p>③ <u>営業販売</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の取引先への営業と増産に伴う新規取引先の開拓に努める。</li> <li>・計画的増産の数量に応じて商社や、仲買等と連携した海外輸出を促進する。</li> </ul> <p><b>【定置網漁業の再構築】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した他産地の良いところを実践導入していく。</li> <li>・水産経営の有識者からの助言を参考に、経営改善に努める。</li> <li>・交換用網（運動場）の導入事業について検討する。</li> <li>・低価格魚の干物の試験製造・試験販売を実施する。</li> </ul> <p><b>【採介藻への支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天然及び養殖ワカメの塩蔵加工等の作業効率化機器などについて検討する。</li> <li>・養殖ワカメの自前人工種苗生産の試験を実施する。</li> <li>・アワビのダイバーによる稚貝放流と放流アワビの追跡調査及びこれまでの</li> </ul>
--------------	---

	<p>結果について分析検証を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験結果を踏まえてヒオウギガイの自前による天然採苗を本格実施する。</li> </ul> <p><b>【延 縄】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活ヅケの出荷先市場と連携して、魚価の向上を図る。</li> </ul> <p><b>【一本釣とイカ釣り】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就業者への中古漁業研修船の貸し出し支援及び新たな中古漁業研修船を導入する。</li> </ul> <p><b>【CAS凍結加工品】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海士町の食材と海士町の食文化をヒントにした商品開発及び国内外への販路拡大を進める。</li> </ul> <p><b>【全ての漁業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者の高齢化、及び担い手不足対策として新規漁業就業者支援事業等を活用する。</li> <li>・海士町で獲れた魚介類を活用した缶詰等の土産物の開発・販売に取り組む。</li> <li>・海士町給食センターと連携して給食用の魚介類加工を実施する。</li> <li>・漁師及び地区住民を交えた海岸清掃（漂着ごみ含）を実施する。</li> <li>・漁民が安全安心な漁業経営を営むため町による漁港・港湾施設整備を実施し、施設の老朽化対策を行いつつ適正に維持管理をする。</li> <li>・離島のハンディ軽減のための海上輸送費支援を行う。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料急騰に備え漁業経営セーフティネット構築事業への加入を促進する。</li> <li>・ドックによる船底清掃や、減速航行、係留中の機関停止などにより燃費の向上を図る。</li> <li>・イワガキ養殖作業等の共同化や船舶・機器の共同利用化の促進。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>浜の活力再生・成長促進交付金（国）、離島漁業再生支援交付金（国県）、漁業担い手確保・育成支援事業（国）、地方創生推進交付金（国）、離島流通効率化事業（国）、新農林水産振興がんばる地域応援総合事業（県）他</p>

4年目（令和4年度） 以下の取組により漁業所得を基準年対比で112%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>【貝類（イワガキ）養殖の生産基盤の強化と桁引き支援】</b></p> <p>① <u>種苗生産</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町営種苗生産施設において安定的な種苗生産に取り組む。</li> <li>・餌料生産（濃縮餌料含む）施設で餌料を生産してコスト削減に取り組む。</li> <li>・採用者を指導育成し担い手として育てる。</li> </ul> <p>② <u>養殖管理</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備した筏で引き続き養殖を行うとともに、新規に筏を増設する。 養殖筏には5月頃多数の稚ナマコが着生する効果もある。</li> <li>・新たな作業保管施設を活用して出荷数量を増やす取り組みを行う。</li> <li>・作業効率化及び人手不足解消のため開発した機器を稼働する。</li> <li>・漁業就業者フェア等による新規生産者等の確保と育成に努める。</li> </ul> <p>③ <u>営業販売</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の取引先への営業と増産に伴う新規取引先の開拓に努める。</li> <li>・計画的増産の数量に応じて商社や、仲買等と連携した海外輸出を促進する。</li> </ul> <p><b>【定置網漁業の再構築】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した他産地の良いところを実践導入する。</li> <li>・水産経営の有識者からの助言を参考に、経営改善を進める。</li> <li>・交換用網（運動場）を導入する。</li> <li>・低価格魚の干物への製造・試験販売結果を踏まえ施設整備の検討をする。</li> </ul> <p><b>【採介藻への支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天然及び養殖ワカメの塩蔵加工等への作業効率化機器などを導入する。</li> <li>・養殖ワカメの自前人工種苗生産の試験検証をする。</li> <li>・アワビのダイバーによる稚貝放流と放流アワビの追跡調査を実施する。</li> <li>・ヒオウギガイの自前による天然採苗を本格実施する。</li> </ul> <p><b>【延 縄】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活メクエの出荷先市場と連携して、魚価の向上を図る。</li> </ul> <p><b>【一本釣とイカ釣り】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就業者への中古漁業研修船の貸し出しを継続する。</li> </ul>
---------------------	--

	<p>【CAS凍結加工品】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海士町の食材と海士町の食文化をヒントにした商品開発及び国内外への販路拡大を進める。</li> </ul> <p>【全ての漁業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者の高齢化、及び担い手不足対策として新規漁業就業者支援事業等を活用する。</li> <li>・海士町で獲れた魚介類を活用した缶詰等の土産物の開発・販売に取り組む。</li> <li>・海士町給食センターと連携して給食用の魚介類加工を実施する。</li> <li>・漁師及び地区住民を交えた海岸清掃（漂着ごみ含）を実施する。</li> <li>・漁民が安全安心な漁業経営を営むため町による漁港・港湾施設整備を実施し、施設の老朽化対策を行いつつ適正に維持管理をする。</li> <li>・離島のハンディ軽減のための海上輸送費支援を行う。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料急騰に備え漁業経営セーフティネット構築事業への加入を促進する。</li> <li>・ドックによる船底清掃や、減速航行、係留中の機関停止などにより燃費の向上を図る。</li> <li>・イワガキ養殖作業等の共同化や船舶・機器の共同利用化の促進。</li> </ul>
活用する支援措置等	<p>浜の活力再生・成長促進交付金（国）、離島漁業再生支援交付金（国県）、漁業担い手確保・育成支援事業（国）、地方創生推進交付金（国）、離島流通効率化事業（国）、新農林水産振興がんばる地域応援総合事業（県）他</p>

5年目（令和5年度） 以下の取組により漁業所得を基準年対比で136%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>【貝類（イワガキ）養殖の生産基盤の強化と桁引き支援】</p> <p>① <u>種苗生産</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町営種苗生産施設において安定的な種苗生産に取り組む。</li> <li>・餌料生産（濃縮餌料含む）施設で餌料を生産してコスト削減に取り組む。</li> <li>・採用者を指導育成し担い手として育てる。</li> </ul> <p>② <u>養殖管理</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備した筏で増産分のいわがきを養殖する。 養殖筏には5月頃多数の稚ナマコが着生する効果もある。</li> <li>・新たな作業保管施設を活用して出荷数量を増やす取り組みを行う。</li> <li>・作業効率化及び人手不足解消のため開発した機器を稼働する。</li> </ul>
--------------	--

- ・漁業就業者フェア等による新規生産者等の確保と育成に努める。

### ③ 営業販売

- ・既存の取引先への営業と増産に伴う新規取引先の開拓に努める。
- ・計画的増産の数量に応じて商社や、仲買等と連携した海外輸出を促進する。

#### 【定置網漁業の再構築】

- ・学習した他産地の良いところを実践導入していく。
- ・水産経営の有識者からの助言を参考に、経営改善を進める。
- ・導入した交換用網（運動場）の適正な管理と運用を行う。
- ・低価格魚の干物等への加工試験販売の結果を踏まえ施設整備の検討をする。

#### 【採介藻への支援】

- ・養殖ワカメの自前人工種苗生産を本格実施する。
- ・アワビのダイバーによる稚貝放流と放流アワビの追跡調査を実施する。
- ・ヒオウギガイの自前による天然採苗を本格実施する。

#### 【延 縄】

- ・活メクエの出荷先市場と連携して、魚価の向上を図る。

#### 【一本釣とイカ釣り】

- ・新規就業者への中古漁業研修船の貸し出しを継続する。

#### 【CAS凍結加工品】

- ・海士町の食材と海士町の食文化をヒントにした商品開発及び国内外への販路拡大を進める。

#### 【全ての漁業】

- ・漁業者の高齢化、及び担い手不足対策として新規漁業就業者支援事業等を活用する。
- ・海士町で獲れた魚介類を活用した缶詰等の土産物の開発
- ・海士町給食センターと連携して給食用の魚介類加工を実施する。
- ・漁師及び地区住民を交えた海岸清掃（漂着ごみ含）を実施する。
- ・漁民が安全安心な漁業経営を営むため町による漁港・港湾施設整備を実施し、施設の老朽化対策を行いつつ適正に維持管理をする。
- ・離島のハンディ軽減のための海上輸送費支援を行う。



漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料急騰に備え漁業経営セーフティネット構築事業への加入を促進する。</li> <li>・ドックによる船底清掃や、減速航行、係留中の機関停止などにより燃費の向上を図る。</li> <li>・イワガキ養殖作業等の共同化や船舶・機器の共同利用化の促進。</li> </ul>
活用する支援措置等	浜の活力再生・成長促進交付金（国）、離島漁業再生支援交付金（国県）、漁業担い手確保・育成支援事業（国）、地方創生推進交付金（国）、離島流通効率化事業（国）、新農林水産振興がんばる地域応援総合事業（県）他

(5) 関係機関との連携

本プランで策定した事項を効果的に推進するため、行政機関（島根県）、民間業者（(株)ふるさと海士）、各種協議会との連携を強化するとともに、卸、仲買、小売店や流通業者、水産機械・器具業者等との連携も強化して施策の推進を図る。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 136%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

(3) 所得目標以外の成果目標

いわがき春香の出荷数量 の増加	基準年	
	目標年	

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

--

## 5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
浜の活力再生・成長促進交付金（国）	イワガキの増産と食品衛生法改正に伴うHACCPの考え方をとりいれた作業保管施設や養殖筏等を整備。
離島漁業再生支援交付金（国県）	生産力の向上、省力・省コスト化に資する漁業用機器等の導入。
漁業担い手確保・育成支援事業（国）	養殖イワガキ生産者の担い手づくり支援。
地方創生推進交付金（国）	販促活動の促進、生産力の向上、省力・省コスト化のための新技術導入・試験等のソフト事業。
新農林水産振興がんばる地域応援総合事業（県）	生産力の向上、省力・省コスト化に資する漁業用器機、漁業研修船等の導入や、実証試験を実施。